

# 光星 打撃中心に調整

## きょう準々決勝 中京大 中京戦

第98回選抜高校野球大会(センバツ)で8強入りした本県の八戸学院光星は、27日第1試合(午前8時半開始予定)の準々決勝で、4強を懸けて中京大(愛知)と戦つた。

26日は兵庫県西宮市の津門中央公園野球場で約2時間最終調整した。ウオーミングアップやキャッチボールを終えたナインは、25日に続いてこの日も打撃練習に注力。右腕のエース安藤、左腕太田ら相手投手陣を意識しながら、左右の打撃投手を相手に快音を響かせていた。最後は一斉に素振りを行い、練習を締めくくった。



準々決勝に向けて、素振りに励む八学光星の選手たち—26日、兵庫県西宮市の津門中央公園野球場

仲井監督は「県民の皆さんの期待に応えられるように頑張っていた」と力を込めた。

中京大(中京)も26日、尼崎市内の球場で約2時間、練習に汗を流した。ノックでは投手と内野手の連携プレーを入念に確認。アウトカウントを設定し、エース安藤らの投球を打つ実戦形式の練習も行った。

約30分間、フリー打撃も行い、2回戦で本塁打を打った4番荻田らが鋭い当たりを放っていた。

安藤は「(光星打線は)コンパクトに鋭く振ってくるという印象。ミートがうまいので、芯をずらして打ち取る投球をした」と表情を引き締め、荻田は「ピッチャーの北口君が良いのでしっかり対応したい」と意気込んだ。

(棟方好華、佐藤正悟、千葉康之)